

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>「住み慣れた地域で、その人らしくご家族との関係を保ちながら、最後まで幸福に暮らせるような支援」の理念に基づいて、職員の採用時、カンファレンスで確認し合っている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>ホーム会、カンファレンスで理念を共有し合っているが、日々の取り組みとして、理念に触れていない時もある。</p>	<p>日々の申し送り、カンファレンスで理念に触れる機会を増やし、意識づけをしていきたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>入居時には家族に説明し理解を得ているが、月日が経ち、理念を伝える機会が減ってきている。地域へも開所時には説明しているが、その後の機会が減ってきている。</p>	<p>家族・地域へ、ホーム便りや広報でアピールしたり、地域の行事へ参加し関わりの中から認知症高齢者の理解を深めてもらう。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩や買い物の時声をかけてもらったり、家で採れた野菜や花を届けてくれる。職員も、地域の人にあいさつをするように心がけている。</p>	<p>継続して地域の方との関わりを広めていきたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会協力金を納付したり、地域の行事(夏祭り)に参加している。</p>	<p>地域の行事に積極的に参加し、交流を深めていきたい。</p>

グループホーム・せせらぎの家(1Fユニット)

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>認知症についてや、地域の方からの相談を受けている。</p>		<p>地域住民を対象に、認知症の理解や接し方の勉強会、広報に認知症についての豆知識を掲載していきたい。</p>
<p>3. 理念を实践するための制度の理解と活用</p>				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>職員全員で理解し取り組んでいる。自己評価をしながら、改善策を見出している。</p>		<p>外部評価の結果をふまえて、改善に向けて具体案の検討や実践につなげていきたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議において、地域の区長等の意見や家族の想いを聞いている。会議の中で、書道のボランティアが始まった。</p>		<p>運営推進会議を通して、地域に理解してもらい、気軽に訪問してもらえるようなホームにしていきたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>管理者は必要に応じ、市の担当者と連絡を取り合っている。ケースの相談をしている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者が職員に伝えたり、研修会に出席した職員が会議で発表している。又、それらを活用して、支援に結び付けている。</p>		<p>今後も勉強会をして、理解を深めていきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>ホーム会で高齢者虐待防止関連法について説明を行なっている。</p>		<p>今後も、虐待防止の為に学習会を開催していきたい。</p>

グループホーム・せせらぎの家(1Fユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に時間を取り、丁寧に説明している。利用料金や起こりうるリスク、重度化や看取りについて説明し納得を得ている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>介護相談員に月に1～2回位来所していただき、相談にのってもらっている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>個々に応じて、家族の面会時には近況を報告し、金銭出納帳にサインをもらっている。健康状態については、こまめに家族へ伝えられている。</p>	<p>職員の移動等についても伝えていきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情の窓口の説明をしている。国保連からのポスターを貼り、苦情を出しやすいようにしている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期的に個人面談をして、職員の意見を聞いたり、問題が起きたときはホーム会で相談している。</p>	

グループホーム・せせらぎの家(1Fユニット)

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況に応じて必要な人員を確保、調整している。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>なじみの職員が対応できるよう、フロアごとに職員は固定している。 新しい職員が入る場合も紹介したり、なじみの関係がつかれるよう配慮している。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修計画を立て、外部の研修へ参加、報告できるようにしている。</p>		<p>内部研修をもっと充実させていきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域のグループホーム交流会に職員が交代で参加している。</p>		<p>今後も、職員同士の交流や、他のグループホームの見学を行なっていきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者は、職員の話聴く機会を設けている。 休憩時間はあるが、職員のための休憩室がない。</p>		<p>休憩場所を考え、工夫していきたい。</p>

グループホーム・せせらぎの家(1Fユニット)

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>シフトの配慮をして、疲労をためないようにしている。</p> <p>定期的な健康診断を行なっている。</p> <p>運営者がホームに来て話を聞く機会が少ない。</p>		<p>運営者にホームに来てもらえるようお願いしていく。</p>
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている</p>	<p>最近、新しい入居の方はいないが、入居前に必ず本人に会い生活状況を把握している。</p> <p>本人、家族の想い、不安に耳を傾け、受け止める努力をしている。</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている</p>	<p>まず、相談に来られた家族の話を聴いてから、入居前に家族の気持ち、不安を聴く機会を作っている。</p> <p>これまでの経緯や苦労をゆっくり聴く機会を作っている。</p>		
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>現在、満室であるが、相談が来た際は他のサービスを紹介するなどしている。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に、本人にも見学に来てもらい、本人にもある程度納得してから入居してもらえるようにしている。</p> <p>職員が自宅に訪問するようにしている。</p>		

グループホーム・せせらぎの家(1Fユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>「教え、教えていただく関係」が築けてきている。 共に暮らしながら利用者を理解しようと勤めている。</p>		<p>利用者がどう暮らしていきたいか、本来の個性や力を引き出すために、本人をよく知る。喜怒哀楽を共にしていく。</p>
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族と職員との関係づくりをしながら、一緒に本人を支えている。 家族ならではの精神的支援をお願いしたり、家族の想いを受け止めて、支援につなげている。</p>		<p>更に、家族との関係を深めていきたい。</p>
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>家族に行事(いちご狩り、日帰り旅行、敬老会など)の参加を促し、本人と家族との時間を作っている。 面会の際も居室で過ごしていただいて、家族の時間を作っている。</p>		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>関係が途切れないよう、面会に来てもらってはいるが、こちらから訪ねて行く機会が少ない。</p>		<p>近所の方々との関わりが保てるように、こちらから近所に出向くようにしていきたい。</p>
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>気の合う同士が楽しく過ごせる環境づくりをしている。日々の心身の状態を見ながら、利用者同士の関係がうまくいくよう職員が調整役となって支援している。</p>		

グループホーム・せせらぎの家(1Fユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	最近、サービス利用が終了した方がいない。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの暮らし方の希望や意向の把握に努めてはいるが、十分ではない。意向の把握が困難な方に対しては、職員で話し合い、その中から把握しようと努めている。		職員間で、家族からの情報を共有し把握に努めていきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に自宅に訪問し、本人、家族から今までの生活について聞いている。本人との会話、友人、家族の会話の中から把握できるようにしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	行動や動作の中から感じ取り、理解しようと努力している。しかし、行き詰った時にはセンター方式を活用したりして、利用者の今の状況を把握するようにしている。		利用者ができないことに目がいきがちだが、できることに着目して、可能性を引き出していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人本位の計画を立てるようにしているが十分ではない。		直接本人に意向を聞いたり、カンファレンスに参加していただけるようにしていく。

グループホーム・せせらぎの家(1Fユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三ヶ月ごとの見直しをしている。 変化があった方に関しては、新たな介護計画を立案しているが、遅れがちである。		変化に応じて即、介護計画を立案していきたい。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は丁寧に行なっているが、介護計画に沿った内容の記録が少ない。		介護計画に沿って実践されたか、それどうなったかの評価を日常的に記入していきたい。 「気づき」の欄に気づいたこと、感じたことを多く記入していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、利用者の身体状況の変化を早めにとらえ、主治医と連携をとっている。必要に応じて受診の介助を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員やボランティアの協力を得ている。日々の生活の楽しみとして、書道、生け花、コーラス、フットマッサージのボランティアの協力を得ている。 消防署と協力して、避難訓練を行なっている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望に応じて、訪問理美容サービスを利用している。		地域の図書館利用を行なっていきたい。

グループホーム・せせらぎの家(1Fユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に、地域包括支援センターの職員に来ていただき、情報交換ができるようになった。		
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に往診してもらったり、受診している。 かかりつけ医が変更になった場合でも、スムーズに適切な医療を受けられるようにしている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	運営者である医師が、認知症の人の医療に熱心で、指示や助言、専門医の紹介をもらっている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態に応じた対応をしている。 かかりつけ医の看護師とも連携がとれている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者入院時、医療機関に情報を提供し頻回にお見舞いに行くようにしている。 利用者入院時、主治医と相談して早期の退院が実現した。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の際に、終末期・緊急時の対応について本人、家族、かかりつけ医と方針を決めている。 本人の状態が重度化した場合に、家族やかかりつけ医と話し合いをしている。		重度化した時にどうしたいのか、日頃から本人の意思をくみ取っていけるようにしていく。

グループホーム・せせらぎの家(1Fユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	状況の変化に応じて、すぐ対応できるよう職員間で話し合ったり、家族と意思の確認を取っている。		
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	最近退居して住み替える方がいない。以前住み替える利用者に対して、関係者間で話し合いや情報交換を行った。		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	カンファレンスの時に、声かけや関わり方について話し合い、さりげない言葉かけや、その人に合った対応をしている。個人情報を漏らさないよう、秘密保持の徹底をしている。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	意思表示できる利用者に対しては声かけをして、なるべく希望にそえるようにしている。できない利用者に対しても声かけしたり、意思表示ができるよう働きかけを多くしている。		

グループホーム・せせらぎの家(1Fユニット)

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ある程度の生活の流れはあるが、一人ひとりそれぞれのペースに合わせている。</p>		<p>利用者の一人ひとりの思いや希望を多く引き出して、それに沿って支援していきたい。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>入居前からのなじみの理美容院へ行なっている利用者もいる。 洋服を選ぶときは、本人の意思に沿うようにしている。</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者一人ひとりに合わせて、できることは一緒に行なっている。</p>		<p>一人ひとりの好み、食べたい物を知り、献立に取り入れていきたい。 昔なじみの食を多く取り入れていきたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>利用者の好みの和菓子や、ケーキなどを買いに行ったりして楽しんでいる。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>なるべくトイレで排泄できるよう働きかけている。 排泄チェック表を使用し、パターンを把握してさり気なく誘導し、トイレで排泄できるよう支援している。</p>		

グループホーム・せせらぎの家(1Fユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの体調や希望に合わせて入浴をしていただいている。 なかなか入っていただけない時は、声がけに工夫している。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの疲れ等に合わせ、日中休息できるように支援している。 夜間十分な睡眠がとれるよう、温かいミルクを飲んでいただいたりしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりできそうなことは、お願いしてやってもらい、お礼を言っている。 お花をしていた方には、時々お花を生けていただいている。		一人ひとりの楽しみ、役割を増やしていきたい。 利用者の得意とすることを把握していき、支援していきたい。
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使う機会がなく、職員が管理していることが多い。		できそうな利用者には、家族と相談し、所持できるように支援していきたい。
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	昨年に比べて、外出する機会は増えている。		なかなか出にくい利用者もいるため、そういった方にも外に行く機会を多く作っていきたい。

グループホーム・せせらぎの家(1Fユニット)

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>家族の協力を得ながら、自宅へ行ったりお墓参りに行ったりしている。</p>		<p>思い出の場所や、以前経営していたペンションに行なってみたり、一人ひとりの希望を聞いて出掛けられる機会を作っていきたい。</p>
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望があれば、電話を使えるようにしたり、年賀状を出せるよう支援している。</p>		<p>友人、家族などと手紙のやりとりができるようにしていきたい。</p>
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>いつでも気軽に訪問できるようにしている。お茶を出したり、居室や、ゆっくり過ごせるような雰囲気作りをしている。</p>		<p>居室だけでなく、ゆったりしたスペースを作り、気兼ねなく過ごす時間を作っていきたい。</p>
(4) 安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>権利擁護や身体拘束についての研修の参加、又その後報告をし、職員の再認識を図っている。</p>		<p>身体拘束についての勉強会を多く持ち、更に認識を深めていきたい。</p>
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中は玄関の鍵をかけずに、自由に外に出られるようにしている。一人で外出しようとしている時には、さりげなく声をかけ、一緒に外出できるようにしている。</p>		

グループホーム・せせらぎの家(1Fユニット)

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>昼夜、職員はフロア、台所におり、さりげなく全員の状況を把握するよう努めている。</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>包丁、針、はさみ等は使用時には見守りをし、使用後は早くに片付ける。 薬は、利用者の手、目の届かない所で管理し、危険を防いでいる。</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>一人ひとりの状態に応じて、危険を予測し、カンファレンスにて話し事故防止に努めている。 薬を飲みやすいようにゼリーを使ったり、転倒を予防できるよう履物の工夫をしている。</p>		
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>救急救命法の学習、訓練を行い、全員が受けている。</p>		<p>夜間の急変時の対応の確認、見直しをしていきたい。</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防署の協力を得て、訓練を定期的に行なっている。 運営推進会議にて話題にして、働きかけている。</p>		<p>様々な状況を想定した訓練をしていきたい。 マニュアルの見直し、確認をしていきたい。</p>
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	<p>起こりうるリスクについてはご家族に伝えている。又、そのリスクを防ぐための抑圧は行わず、家族の理解と協力を得て、自由な暮らしを大切にしている。</p>		

グループホーム・せせらぎの家(1Fユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>普段から一人ひとりの状態を把握しており、変化時には記録をつけ職員同士情報の共有をしている。状況により、速やかに主治医に連絡し、受診につなげている。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬の説明書を個人チャートに入れ、職員一人ひとりが把握できるようにしている。薬の変更時には、内容、副作用など連絡ノートに記載し、詳細な記録をしている。</p>	<p>薬についての勉強の機会を作りたい。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>飲食物の工夫をし、自然排便を促している。牛乳を飲用してもらったり、繊維質を多く摂ってもらっている。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後、歯磨きの声かけをしている。一人ひとりの力に応じ、手伝いをしている。就寝時には、義歯の洗浄を行なっている。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養士による献立を元に食事作りをしている。一人ひとりの残量の把握している。苦手な物をとらえ柔軟な支援をしている。</p>	<p>なじみのものを多く取り入れたい。</p>

グループホーム・せせらぎの家(1Fユニット)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員、来客者には必ず手洗い、うがいをしてもらっている。地域の感染発生状況の情報を職員で共有している。 職員、入居者共にインフルエンザ予防接種を受けている。		感染症予防、対策の勉強会を行なっていきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、ふきんは毎晩漂白している。 食材の届く日、普段から意識して冷蔵庫内のチェックをしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まわりに花を生けたり、プランターを置いたりし、季節感を出している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事(笹、繭玉)に合った飾り付けをしている。 写真も、外出したときの物を飾ったりしている。 ご飯の炊ける匂い、茶碗を洗う音など生活感ある空間になっている。		写真を季節に合わせて貼りかえをしていきたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関、スタッフルーム前、ベランダに椅子を置き、一人、又は利用者同士で過ごせる居心地良い空間作りをしている。		

グループホーム・せせらぎの家(1Fユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の状況に合わせて、なじみの物(タンス、ぬいぐるみ、椅子、TV、寝具、時計)などを持ち込んでその人らしい部屋になるように工夫している。		殺風景な部屋の利用者の家族の協力を得て、なじみの物のある居心地良い空間作りに努めたい。
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常に温度計を見たり、利用者の様子から換気をしたり、時にはエアコンや、床暖房を使い温度調節をしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身長が低い利用者にとっては、流し台が高いこともあり、足台を使用している。居室の入り口の取っ手が高い位置にあったので、利用者に合った位置にした。		
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの表示をしたり、部屋がわかるように工夫している。		
87 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダに出て外気浴をしたり、庭にある畑に行なって野菜を収穫したりしている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に つけること)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

グループホーム・せせらぎの家(1Fユニット)

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に をつけること)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている
		少しずつ増えている
		あまり増えていない
		全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が
		職員の2/3くらいが
		職員の1/3くらいが
		ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が
		家族等の2/3くらいが
		家族等の1/3くらいが
		ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者のベースに合わせて、穏やかでゆったりとした空間づくりをしている。
職員間で入居者の思いを共有し、寄り添うケアに努めている。